

令和4年4月26日

令和3年度 個人情報保護 業務監査用 報告書

(公社)東京グラフィックサービス工業会
個人情報保護委員会 委員長 鈴木将人

■個人情報保護委員会及びプライバシーマーク審査会

第1回 5月20日、第2回 7月7日、第3回 9月7日、第4回 10月7日、第5回 12月8日、
第6回 1月26日、第7回 3月16日

個人情報保護委員会 委員構成：業界側＝鈴木将人(株)東京技術協会)、樋貝浩久(株)東和プリント社)、
沖敬三(JaGra専務理事)、専門委員＝清水良二(弁護士)、福長恵子(公益社団法人日本消費生活アド
バイザー・コンサルタント協会常任顧問)、東吉彦(工学博士・東京工芸大学准教授)、山口友康(富士
フィルムビジネスイノベーション(株)＝IT専門職)

監査人：野田晃司(株)ジェーピークリエイト)

各回にてプライバシーマーク付与適格性認定を行い、併せて事故を起こした案件の欠格レベルの判定、
個人情報保護を巡る情報交換を行った。

事故案件の対応：9件報告された。これらの案件は①顧客の婚礼に関する情報を従業者が家
族に漏らし、それが拡散した。1件、②メール誤送信6件、③年賀状の誤配1件、④資格認
定カードの送付誤配1件。→各事案について個人情報保護委員会にて欠格レベル1～3と判
定し、当該社へ注意喚起の文書を送付した。

相談案件は、9件(改正法への対応、プライバシーマークの審査基準変更、リモートワーク
における安全管理策、他)。各々事務局が対応し、回答した。

■組織体制

個人情報保護委員会 構成：委員長＝鈴木将人副会長(株)東京技術協会)、樋貝浩久(株)東和プリント
社)、沖敬三(JaGra専務理事)、清水良二(弁護士)、福長恵子(公益社団法人日本消費生活アドバイザー・
コンサルタント協会常任顧問)、東吉彦(工学博士・東京工芸大学准教授)、山口友康(富士フィルムビ
ジネスイノベーション(株)＝IT専門職)

監査人：野田晃司(株)ジェーピークリエイト)

職員＝斎藤成専務理事、渡部潤職員、吉野玲緒職員 3名ともプライバシーマーク主任審査
員

■業務監査(令和3年4月27日)：認定個人情報保護団体における組織規程第7条に基づき、業務報
告及び苦情処理及び事務局の安全管理面(チェックリストを利用)について監査を行った。個人情報
保護監査人は野田晃司氏(株)ジェーピークリエイト)、その結果は、事業計画に従った事業の遂行、情
報漏えい事故は1件、苦情処理は0件、相談業務は適切に処理されたことが認められた。

情報漏えい：1件(DM送付間違い) 苦情・相談：苦情0件、相談：10件(改正法への対応、新型コ
ロナの関係⇒リモートワークの注意点、プライバシーマーク審査延期への対応、Pマーク新規取得につ
いて)

■認定個人情報保護団体としての活動

●個人情報保護委員会 認定団体連絡会：8月27日及び8月30日（両日とも当会の活動を報告した）、令和4年3月11日 ZOOMにて 出席者：斎藤専務理事

●個人情報保護委員会 認定個人情報保護セミナー：11月9日にオンラインにて開催された。出席者：斎藤専務理事

●事故・苦情報告

今期の事故報告6社9件、苦情はなし。

月次で個人情報保護委員会へ事故報告を月初に提出した。（4～3月）

●認定個人情報保護セミナー

1. 令和4年3月10日にニッケイビルにおいて、改正個人情報保護法の概要と2022年4月からのプライバシーマーク付与審査に係るJipdecによる・新たに策定した「構築・運用指針」の解説について実施しリアルで25名が参加、ビデオ収録し、4月に入ってインターネット放送 JaGraBBにて放映を開始した。

講師はJipdec・戸田洋平氏と東京グラフィックス・斎藤専務理事が改正個人情報保護法の概要と認定個人情報保護団体の役割の確認を行った。

●機関誌による情報提供

月刊「東京グラフィックス」令和3年4月号から4年2月号 掲載

「リスクマネジメントと個人情報保護・BCP」計10回 内容：情報提供と啓発のために機関誌に記事を掲載した。タイトルは以下の通り。執筆は斎藤専務理事

4月号：事例に見るクラウドサービスやテレワーク環境での個人情報漏えいに関する注意喚起

5月号：IPA 情報セキュリティ10大脅威（組織編）」その1

6月号：IPA 情報セキュリティ10大脅威（組織編）」その2

7月号：IPA 情報セキュリティ10大脅威（組織編）」その3

8月号：DX時代における企業のプライバシーガバナンスー経済産業省、総務省ガイドブック

10月号：PIA（個人情報保護評価）取組の促進ー個人の権利利益保護を事前に予防するために

11月号：自宅・外出先での業務用端末利用上の注意ー機密・個人情報の漏えい予防のために

12月号：DXの展開 デジタル産業創出に向けたー経済産業省レポート

1月号：ネットワークの防御、外出先での注意とログの管理

2月号：仮名加工情報と匿名加工情報の違い

●出版：

「印刷業界の個人情報保護ガイドブック」第7版

令和4年3月24日発行 A4版88頁 このガイドブックは令和2年3年の法改正が4月からの本格施行に合わせその概要とプライバシーマーク付与に係る新審査基準の4月実施に対するJaGraガイドライン改訂（第6版）の解説。さらに安全管理措置、時宜にあったエピソード、資料編として直近の個人情報保護に関する法、ガイドライン、条例等を記載した内容で3月末に全会員へ配布した。執筆は斎藤専務理事

■（一財）日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）

・審査機関連絡会議（いずれもZOOM開催）

開催日：第1回6月17日、第2回9月17日、第3回11月2日、第4回1月28日、第5回3月24日 齋藤専務理事が出席した。

・セミナー：7月9日（ZOOM開催）齋藤専務理事が出席した。

■プライバシーマーク付与事業：

●令和3年度プライバシーマーク申請事業者=66社（内訳：新規=5、合併=0、更新=61）概ね新規は予想を上回り、更新はほぼ予定通りの状況で推移した。新型コロナの影響で現地審査の延期希望の事業所もあった。ただし、令和4月1日からプライバシーマークの審査基準が変更されることから3月までに更新申請が増加し、単年度としては過去最大の申請を受け付けた。（5社が更新辞退）。これにより、収入面は予算通り、支出もほぼ予算に沿って運営できた。

当会プライバシーマーク付与事業者数は、累計104社となった。

4月1日以降3月31日までの実施済み現地審査及び申請事業者は以下の通り。

新規：5社=NPC（文京）、エフイー（未加入）、文書システムサービス（千代田）、日経メディカル開発（港）、文成社（文京）

更新：61社=日本ハイコム（文京）、コピーボックス（文京）、ワコー（文京）、東京文久堂（城東）、大進印刷（文京）、ピーアイエックス（新宿）、プレシーズ（千代田）、プリコ（城東）、三進社（港）、文栄社（中央）、イナミツ印刷（港）、第一資料印刷（新宿）、プリントボーイ（中央）、サンワ（千代田）、会議録研究所（千代田）、小宮山印刷（中央）、文化ビジネスサービス（港）、倉敷印刷（千代田）、エムツークリエイト（港）、富士リプロ（千代田）、プリントネット（千代田）、甲文堂（文京）、日新事務器（中央）、文伸（三多摩）、創基（千代田）、平河工業社（千代田）、アイエス（文京）、システムジャパン（城東）、ケイスイ（文京）、友栄写真タイプ社（城東）、プリントバック（千代田）、山櫻（中央）、

EDPアシスタント（港）、青樹印刷（中央）、マトリックス・オーガナイゼーション（新宿）、菅原印刷（城東）、勝美印刷（文京）、日経印刷（千代田）、日本C&C（文京）、緑陽社（三多摩）、ピーアンドディーヒロサワ（文京）、大應（千代田）、カネコ（新宿）、ケープリント（千代田）、東邦（城南）、大和プリント（千代田）、マイプリント（新宿）、オレンジ社（三多摩）、マステック（城東）、西谷印刷（文京）、ヤマノ印刷（文京）、向陽デジタルワークス（文京）、フジサービス（港）、ハピネス情報処理サービス（千代田）、ミック（文京）、メディアランド（中央）、東京リスマチック（千代田）、宛名商会本店（文京）、加藤文明社印刷所（千代田）、ハウズ・プラン（旧・千代田）、共立速記印刷（文京）、

更新辞退：5社=ココデ印刷（文京）、高田（三多摩）、生田商会（文京）、恵友印刷（新宿）、五月商会（文京）

なお、新規申請向け事務局では、プライバシーマークに関心のある会員企業への訪問を通じ、啓発活動を行い、説明を行った。

● J ipdec によるプライバシーマーク審査機関の検査

2 年毎に実施される J ipdec 職員による審査業務の検査が行われた。事務所への立ち入り検査は 4 月 20 日。現地審査の帯同は前年度 3 月 3 日に(株)サンライズにて実施。

検査の結果、数点の改善指示があり是正し、審査機関としての継続がなされた。(5 月)

● プライバシーマーク審査員のフォローアップ研修

5 月 12 日、日本印刷会館にて審査員 3 名の資格維持のためのフォローアップ研修会があり、参加し、各々合格した。

● 令和 3 年度プライバシーマーク 収支関係

収入

プライバシーマーク付与事業：16,958,233 円 講習会参加費：46,000 円

合計：17,004, 233 円 (予算=1,700 万円) ※令和 2 年度収入=1,466 万円で 234 万円増

支出

事業費：17,947,998 円 (予算=1,748 万円)

公 1 の全体での支出比率：70.8% ⇒50%を超えており適法

(詳細は別紙)

合計：▲94 万円 ⇒収支赤字であるので適法

以 上